

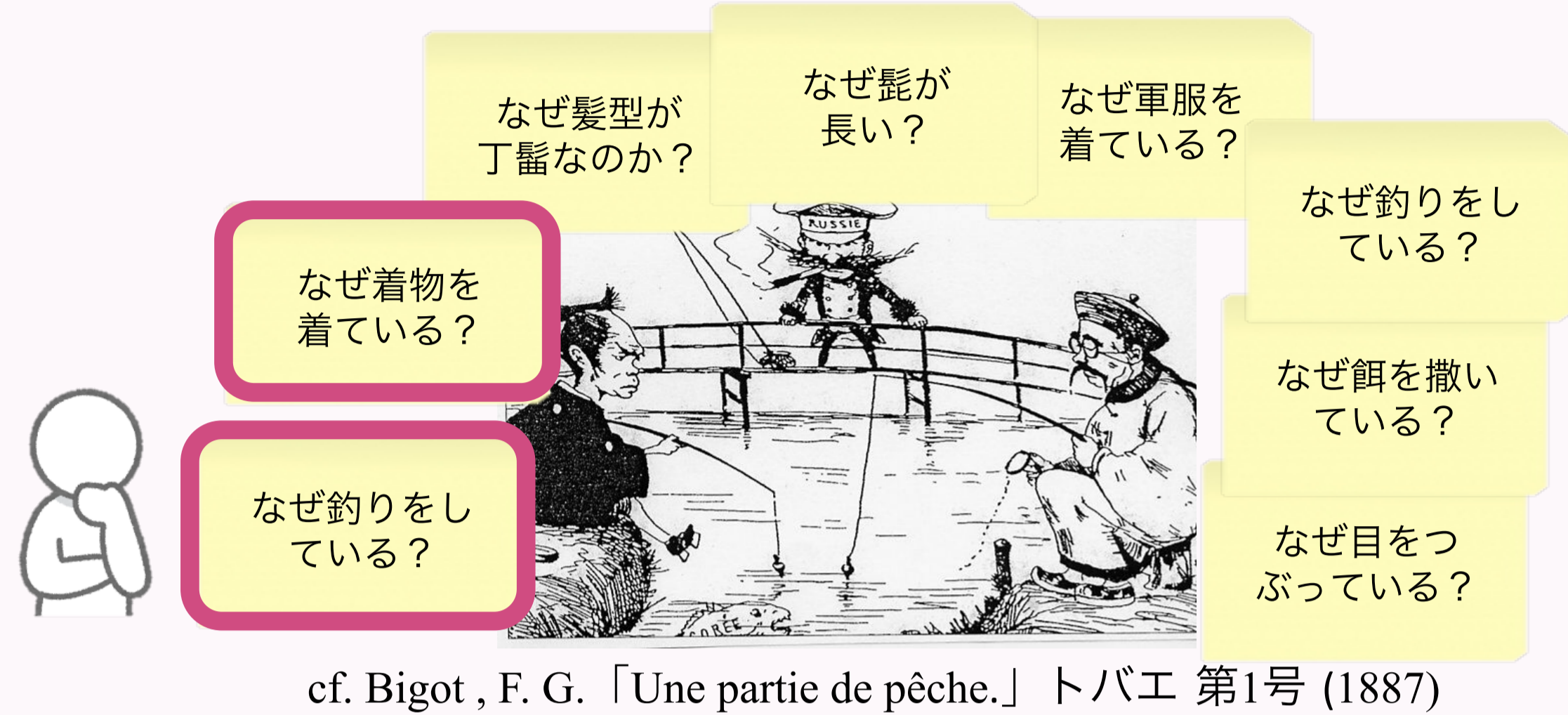
歴史的解釈活動支援に向けた風刺画の教材化

大阪府立大学大学院 人間社会システム科学研究科 室谷 大貴, 瀬田 和久, 林 佑樹

研究目標：風刺画を利用した歴史的解釈活動の支援

研究仮説

歴史解釈活動への入り口として
風刺画がより良く機能するのではないか



cf. Bigot, F. G. 「Une partie de pêche.」 トバエ 第1号 (1887)

◆ 社会的な問題や出来事を効果的に要約し、当時の人物が何を考えていたのかということに関して洞察する機会を提供

国内情勢に関して

日本は、日清戦争を契機に対外進出を進め、国際的地位を向上させてきたかったのかもしれない

国外情勢に関して

朝鮮国内でも、親日派と親清派が対立を起しどちらにつくか迷っていた

日清戦争

国際的地位

国家戦略

当時日本は国際的地位が低かった

日本が「帝国主義」に転換していく契機となった

アプローチ：風刺画セマンティクスに基づく歴史的解釈活動支援

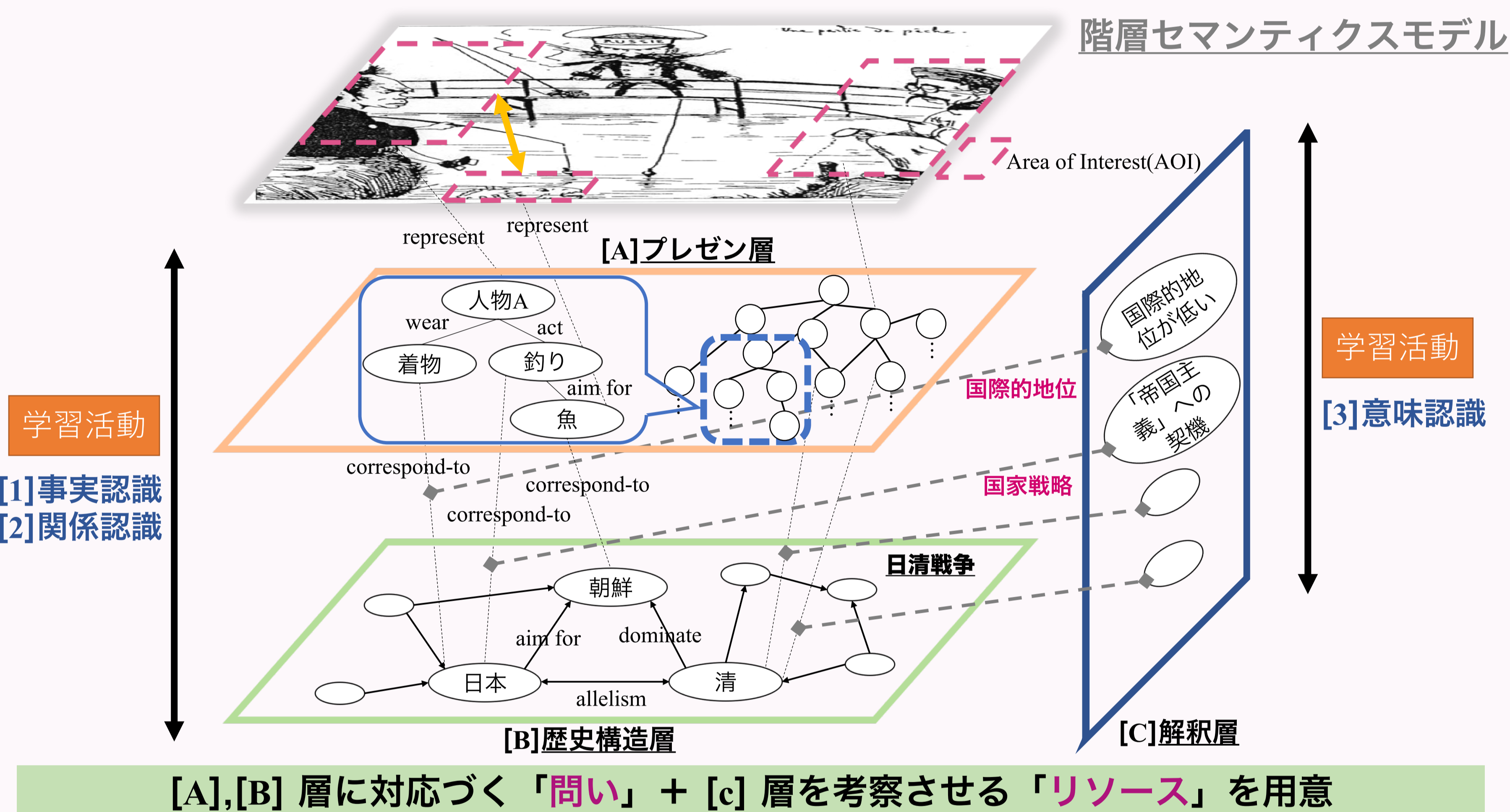
困難性

- ① 風刺画を見て歴史的解釈活動につながる疑問を作ること
- ② 疑問を掘り下げ歴史的解釈に至ること

学習活動

- [1] 事実認識：描かれている各オブジェクトの状態・動作が何を意味するのかを読み解く
- [2] 関係認識：描かれている各オブジェクト間の違いが何を意味するのかを読み解く
- [3] 意味認識：[1],[2]の理解を統合し歴史的背景を読み解く

cf. 黒田日出男, “姿の仕草の中世史” 平凡社 (1986)



[A],[B] 層に対応づく「問い」+ [c] 層を考察させる「リソース」を用意

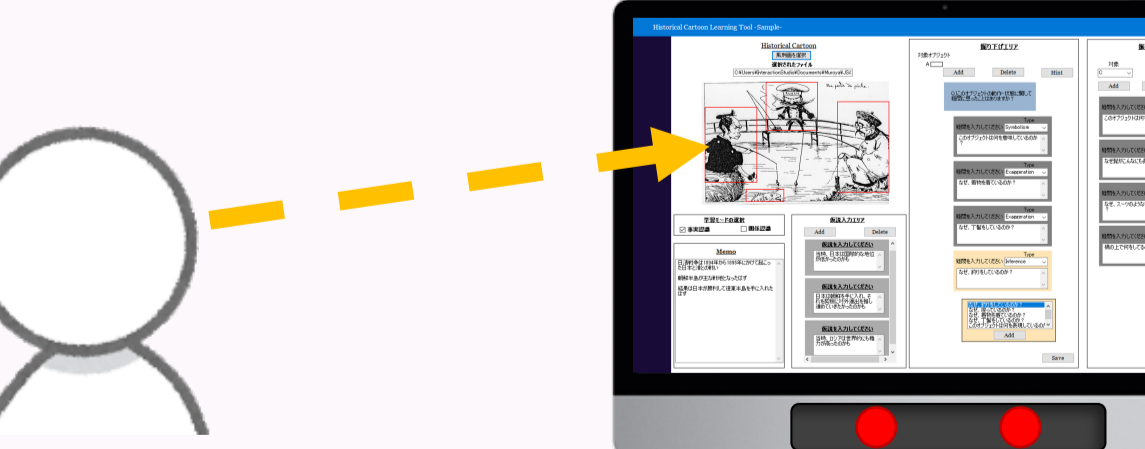
プロトタイプシステム

システム設計指針

- ◆ 発見的・探究的な学習活動の尊重
- ◆ システムが具体的な学習対象を誘導するのではなく学習者の活動に追従する

対象としている学習者

- ◆ 対象の歴史事象に関して基礎的な知識を身に付けている学習者



学習者の興味対象を捉える仕組みとしてEye Trackerを利用

今後の課題

- ・ システム機能の精査と運用法に関する検討
- ・ 評価実験手法の検討